ぼくの考えた福祉

志田小学校　六年　佐藤洸明

辞書で「福祉」という言葉を調べると「幸せ」や「豊かさ」を意味する言葉と出てきます。

このことからぼくは、おばあさんのことを考えました。

ぼくのおばあさんは、昔から糖尿病で、足が動きません。そのためいろいろな時に誰かの助けが必要です。ぼくは、おばあさんが移乗するときに肩を貸して支えてあげたり、車いすに乗せてあげたりします。車いすに乗せてあげるのにも、すごく時間がかかります。ぼくも段々疲れてきて、イライラしてしまうこともあります。ついぼくは、「速くして」と言ってしまいます。最近はいつもおこっているような気がします。おばあさんだって一生懸命やっているのも分かっています。うまくできないから時間がかかるのも分かっていい

ます。分かっているのに手伝っているうちにイライラしてしまうのです。自分でもおこりすぎだと思います。おばあさんはどう思っているのか心配になりました。ぼくの事で悲しんでいるかもしれません。それでおばあさんに「幸せ」かどうか聞いてみました。おばあさんは「私は、とても幸せだよ。いつもありがとう」と言いました。いつもおこっているぼくに、こんなきびしくてうれしい気持ちと、おばあさんが幸せだと思ってくれるなんて。悪かったなあと思ったりました。

この日からぼくは、おばあさんの手助けをがんばっています。手助けする内容は前と変わっていません。前はおこっていたところで、優しく話をして、せかさないようにしています。楽ではないけれど、おばあさん

ごす一日一日を大切にしていきたいと思った

ので、できるだけがんばっていきます。

おばあさんが「幸せ」と言ってくれてうれしかったです。おばあさんがずっと「幸せ」でいられるようにぼくのできることをもっと考えたいです。

おばあさんのことを考えてぼくは、相手や自分、周りの人が笑顔でいられるようにみんなで協力する事が「福祉」という事なのでは

ないかと思いました。簡単なことではないと思うけれど一人一人が周りの人を大切にすることが幸せや豊かさを作ることになるのだと思いました。